

羗子太三郎ハ放蕩者由ハ離縁せしを恨み久四郎ガ

世渡り益金明神の鷹御札を賣る事を陰

より訴へ出さうと云ふ郎親子召まを御捌て云

無捏相海を後なるに新宿の茗荷屋で

娼妓とありてをきと
ありてあり

大三郎と名乗る再び

結要縁八日毎小
一巻

探子泥水の死と地

下五カ所にあるのだから

ウチノオホノミヤノ
明治八年四月廿六

の夜二入連立ち太竜寺の境内へ行

太三郎もくろみをかばひ身みの置ち所

ふたより我の友とて死なばと刃物を

出玉子亮不仕博紅を服小澤女服切了

賸の苦うが、をおね誠と思ふ親を苦うめ、奴

太三郎の腹をさへ忽ち貫て死する是を塩釜明神

此言報多う其年試う事願まぬ
 直に召捕らう

徐政叔

水ヲ忠治